

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19H03935

研究課題名(和文) がん薬物療法を受ける高齢者の質の高い療養過程を支援する看護師育成プログラムの構築

研究課題名(英文) The development of a nursing program to support the high quality medical treatment process of elderly cancer patients who receive chemotherapy.

研究代表者

片岡 純 (Kataoka, Jun)

愛知県立大学・看護学部・教授

研究者番号：70259307

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,400,000円

研究成果の概要(和文)：がん薬物療法を受ける高齢者の質の高い療養生活を支援する看護師育成プログラムを構築することを目的とした。第1段階では、専門看護師5名と認定看護師8名を対象とした半構造化面接調査を実施し、高齢者を支援するために看護師が獲得する必要がある実践能力10カテゴリを抽出した。第2段階では、10カテゴリで示された看護実践能力の重要度と難易度等について、128名の看護師(CNS,CN)を対象としたデルファイ法による調査を行った。その結果、すべての看護実践能力について、育成プログラムによって看護師が獲得する必要があることが示された。結果を受けて、15サブプログラムの教育内容と教育目標の作成に着手した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、第1段階、第2段階のプロセスを経て、がん薬物療法を受ける高齢者の質の高い療養生活を支援するために必要とされる看護実践能力を明らかにした。この結果を受けて、15サブプログラムからなる看護師育成プログラムの作成に着手している。作成した看護師育成プログラムを臨床に適用することで、病態判断力と臨床推論力を有し、エビデンスに基づくケアを提供して、がん薬物療法を受ける高齢がん患者の質の高い療養生活を支援する看護師を育成することが期待される。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop a nurse training program support the high quality medical treatment process of elderly cancer patients who receive chemotherapy. In Phase 1 study, a semi-structured interview survey was conducted with five CNS and eight certified nurses, as a result, 10 categories of practical competencies were identified that nurses need to acquire in order to support the elderly. In Phase 2 study, 128 nurses(CNS,CN) were surveyed by the Delphi method regarding the importance and difficulty of the nursing practice competencies indicated in the 10 categories. The results indicated that all nursing practice competencies need to be acquired by nurses through a development program. Based on the results, we began to develop the educational content and educational goals for the 15 subprograms.

研究分野：がん看護学

キーワード：がん薬物療法 高齢者 看護師育成プログラム 療養過程 QOL

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

がん薬物療法は幅広いがん種に適用が可能であり、分子標的薬は高齢者でも使用しやすい薬理学的特徴を有すること、また殺細胞性抗がん薬による治療は支持療法の進歩によって従来よりも高齢者でも行いやすくなっていることから、高齢がん患者に対するがん治療の柱に位置づけられる。

外来化学療法を受ける高齢がん患者が体験する困難には、治療の副作用、痩せたことによる悲しみ、治療のたびに体力が落ちると感じる事、化学療法の効果に対する不安、調子の悪い時の自己判断に関する心配、などが高齢者の視点から示されている(森本:2011)。高齢がん患者に対するがん薬物療法では、患者個々の余命・意思決定能力・総合的機能(認知機能、日常生活活動・意欲等)・治療目標と価値観・リスクの評価を行ったうえで治療内容を決定する必要がある。また、臓器の残存機能低下や併存症により有害事象が成人よりも強く現れるリスクがあり、個別性に応じた適切な支持療法の実施が求められる。したがって、看護師が高齢がん患者の適正な薬物療法の遂行を支援するためには、高齢者の総合的機能や薬物動態・薬力学的特徴、ならびに個別性を踏まえた高度な病態判断力と臨床推論力を有することが求められる。

そこで、高度な病態判断力と臨床推論力を有し、エビデンスに基づくケアを提供して、がん薬物療法を受ける高齢がん患者の質の高い療養過程を支援する看護師の育成プログラム構築を研究課題とした。がん薬物療法を受ける高齢がん患者の看護に関する知見を体系化し看護師育成プログラムとして提供することで、看護師の看護実践能力が高められ、がん薬物療法を受ける高齢がん患者の療養過程の質向上が期待できる。

2. 研究の目的

がん薬物療法を受ける高齢がん患者の質の高い療養過程を支援する看護師の育成プログラムを構築する。

3. 研究の方法

本研究はプログラム構築までの4段階で構成した。研究期間内に第2段階まで進んだため、第2段階までの方法ならびに結果について報告する。

- (1)第1段階：がん薬物療法を受ける高齢者の質の高い療養過程を支援するために、看護師が獲得する必要がある看護実践能力の抽出
研究デザイン：質的記述的研究

用語の定義

- ・高齢患者：65歳以上の患者
- ・質の高い療養：がんや薬物療法により影響を受ける身体・心理・社会的機能を維持・回復しながら、治療と生活の折り合いをつけつつ、患者が望む生活のありようを実現すること
- ・看護実践能力：薬物療法を受ける高齢がん患者の質の高い療養過程を実現するための知識・技術・態度の要素を含む看護師が身につけるべき有能性

研究対象：A地方の病院に勤務するがん看護専門看護師、老人看護専門看護師ならびにがん化学療法認定看護師。選定条件は、高齢がん患者に対するがん薬物療法を実施している病院(病棟あるいは外来)に勤務していて、専門看護師あるいは認定看護師の資格取得後、がん薬物療法を受ける高齢がん患者の看護の経験が3年以上あることとした。がん看護専門看護師と老人看護専門看護師は機縁法で選定し、研究協力依頼文書と必要に応じて看護部門長宛の協力依頼文書を郵送し、同意が得られた対象者に調査を実施した。また、がん化学療法看護認定看護師は、日本看護協会 Web ページの登録者一覧に勤務先と氏名を登録している看護師の中から選定し、まず勤務する病院の看護部門長に研究協力を依頼する文書を郵送し、協力の承諾が得られる場合は、対象者に研究協力依頼文書を渡していただくよう依頼した。研究協力で同意する対象者に調査を実施した。

調査方法

インタビューガイドを用いた半構造化面接調査法でデータを収集した。がん看護専門看護師、老人看護専門看護師に対しては個別に面接を行うこととし、一人あたり60分程度の面接調査を実施した。がん化学療法看護認定看護師に対しては、グループダイナミクスによる活発な議論が行われることを意図して、1グループ4名からなるグループインタビューを、1回90分程度実施した。調査内容は、個別面接調査、グループインタビューともに、対象者の属性と、がん薬物療法を受ける高齢がん患者の看護に携わる看護師が高齢者の質の高い療養過程を支援するうえで獲得する必要がある看護実践能力とした。なお、本調査でいう看護師はジェネラリストを想定した。面接の内容は対象者の許可を得て録音し、逐語録を作成した。調査期間は、2019年10月～2020年1月であった。

分析方法

逐語録から、がん薬物療法を受ける高齢がん患者の質の高い療養過程を支援するために看護師が獲得する必要がある看護実践能力に関連する記述を抽出し、一文で理解可能な表現で表しコードとした。コードの類似性、相違性を比較検討しながら共通するものを集めてサブカテゴリ、カテゴリを形成した。分析の厳密性については、がん看護、老年看護の経験を有する研究者間のディスカッションにより担保するように努めた。

- (2) 第 2 段階：がん薬物療法を受ける高齢者の質の高い療養過程を支援するために、看護師が獲得する必要がある看護実践能力の明確化
研究デザイン：デルファイ法による質問紙調査

研究対象：第 1 段階の面接調査に協力が得られたがん看護専門看護師 4 名と老人看護専門看護師 1 名。日本看護協会ホームページに氏名と勤務先を登録している関東・中部・近畿地方のがん化学療法看護認定看護師（がん薬物療法看護認定看護師）500 名程度とした。

調査内容

面接調査の結果から抽出した「がん薬物療法を受ける高齢者の質の高い療養生活を支援するために看護師が獲得すべき看護実践能力」64 項目および属性とした。

調査方法：専門看護師、がん化学療法看護・がん薬物療法看護認定看護師 500 名を対象としたデルファイ法による質問紙調査を行った。1 回目は、がん薬物療法を受ける高齢がん患者に対し、「看護師が獲得する必要がある看護実践能力として適切か（適切性）」「獲得する必要がある能力として重要か（重要性）」「看護師が実施可能な内容か（実施可能性）」「看護師が本人の努力や現場での教育で身に着けることが容易か（難易度）」について 4 段階で評価を依頼した。2 回目は、「がん薬物療法を受ける高齢がん患者の質の高い療養生活を支援するために、『教育プログラムによって』看護師が獲得する必要がある看護実践能力」として、「とても必要である」～「全く必要でない」の 5 段階で評価を依頼した。

分析方法

1 回目の回答において、適切性と重要性の評価が「4：とても適切/重要」「3：やや適切/重要」である回答が合わせて 80%以上であった項目を 2 回目の調査項目とした。2 回目は「5：とても必要である」「4：やや必要である」の回答があわせて 80%以上を、教育プログラムによって看護師が獲得する「必要」がある看護実践能力としてコンセンサスが得られたと判断する基準とした。

倫理的配慮：愛知県立大学研究倫理審査委員会の承認を受け実施した。

4. 研究成果

- (1) 第 1 段階：がん薬物療法を受ける高齢者の質の高い療養過程を支援するために、看護師が獲得する必要がある看護実践能力の抽出

対象者の属性

対象者はがん看護専門看護師 5 名、老人看護専門看護師 1 名、がん化学療法認定看護師 8 名であった。グループインタビューはがん化学療法認定看護師 4 名ずつ、2 グループ実施した。対象者の年齢は、30 歳代 1 名、40 歳代 5 名、50 歳代 8 名であった。また、所属部署は、外来 9 名、病棟 1 名、専従チーム等 4 名であった。専門看護師としての経験年数は 3 年以上 5 年未満 2 名、5 年以上～10 年未満 2 名、15 年以上～20 年未満 2 名であり、認定看護師経験年数は 5 年以上～10 年未満 2 名、10 年以上～15 年未満 5 名、15 年以上～20 年未満 1 名であった。

がん薬物療法を受ける高齢がん患者の質の高い療養過程を支援するために看護師が獲得する必要がある看護実践能力

看護師が獲得する必要がある看護実践能力は、10 カテゴリ、46 サブカテゴリが抽出された。

- (2) 第 2 段階：がん薬物療法を受ける高齢者の質の高い療養過程を支援するために、看護師が獲得する必要がある看護実践能力の明確化

対象者：1 回目の対象者は 128 名（有効回収率 25.6%）であった、2 回目の調査に同意した 97 名に質問紙を送り 75 名（回収率 77.3%）が回答した。

結果：1 回目調査では、64 項目すべてにおいて「4：とても適切/重要」「3：やや適切/重要」である回答が合わせて 80%以上であった。また、実施可能性・難易度ともに「4：必ず実施できる/まったく難しくない」「3：やや実施できる/あまり難しくない」の回答が 80%に満たなかった項目は 35 項目であった。2 回目は 64 項目すべてにおいて、「必要」とする回答が 80%以上であった（表 1）。

看護実践能力 64 項目すべてが適切ならびに重要と評価されたのは、専門家を対象とした面接調査によって、看護師が獲得すべき看護実践能力が適切に抽出されたからと考える。看護実践能力 64 項目すべてが適切ならびに重要と評価されたことから全項目を教育内容に含めることが妥当であり、また今後開発予定の教育プログラムでは、難易度が高いと評価された項目を重点課題と位置づけ、看護実践能力の涵養を意図した内容とする必要性が示された。結果を受けて、15 サブプログラムの教育内容と教育目標の作成に着手した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 片岡純、森本悦子、近藤三由希、吉田彩、広瀬会里、尾沼緒美、百瀬由美子
2. 発表標題 がん薬物療法を受ける高齢者の質の高い療養過程を支援する看護師が獲得する必要がある看護実践能力
3. 学会等名 第36回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片岡純、百瀬由美子、近藤三由希、吉田彩、広瀬会里、尾沼奈緒美、森本悦子
2. 発表標題 デルファイ法によるがん薬物療法を受ける高齢がん患者を支援するための看護実践能力の明確化
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	尾沼 奈緒美 (onuma naomi) (00295627)	愛知県立大学・看護学部・講師 (23901)	
研究分担者	吉田 彩 (yoshida aya) (10440249)	中京学院大学・看護学部・講師 (33706)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	百瀬 由美子 (momose yumiko) (20262735)	日本赤十字豊田看護大学・看護学部・教授 (33941)	
研究分担者	森本 悦子 (morimoto etuko) (60305670)	甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・教授 (34507)	
研究分担者	広瀬 会里 (hirose eri) (90269514)	愛知県立大学・看護学部・准教授 (23901)	
研究分担者	内村 菜 (siori utimura) (00981705)	愛知県立大学・看護学部・助教 (23901)	
研究分担者	田中 里佳 (rika tanaka) (60850170)	愛知県立大学・看護学部・助教 (23901)	
研究分担者	近藤 三由希 (kondo miyuki) (20805676)	愛知県立大学・看護学部・助教 (23901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------